

旭労災病院ニュース

病院情報誌

第 120 号

平成 27 年 11 月 1 日発行

発行所 : 旭労災病院

〒488-8885

尾張旭市平字甲北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

超高齢者に対する骨粗鬆症治療

整形外科主任部長 花林 昭裕



2011 年から 4 年を経て 2015 年 7 月に骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインが改訂されました。今回の改定の目玉は、前回改訂後に新しく発売された副甲状腺ホルモンのテリパラチド酢酸塩（テリボン）、ビスホスホネート製剤のイバンドロネート（ボノテオ）、抗 RANKL 抗体薬のデノスマブ（プラリア）の評価および既存の薬物の新しい剤型に関する情報、エビデンスが追加されたことです。

現在日本で使用できる骨粗鬆症治療薬は、カルシウム薬、女性ホルモン薬、活性型ビタミン D₃ 薬、ビタミン K₂ 薬、ビスホスホネート薬、SERM、カルシトニン薬、副甲状腺ホルモン、抗 RANKL 抗体薬、その他の 10 種に分類され、さらに一般名となると 21 剤となります。これだけ多くの選択肢があるとその選択に迷ってしまいます。実際には、患者の年齢、低骨密度の程度、既存骨折の有無、内科的合併症の有無、経済力などを考慮して選択することになります。

高齢者では加齢に伴う腎機能低下があり、骨粗鬆症が高齢者に頻発することから、常に腎機能低下に応じて治療薬の選択を考慮する必要があります。eGFR 低下につれて血性 PTH の上昇、水酸化ビタミン D₃ 欠乏が著明となり、骨折のリスクが上昇する一方で、腎機能低下に伴い尿中へのカルシウム・リン排泄は低下することから活性型ビタミン D 製剤の投与は慎重になるべきです。また、ビスホスホネート薬や SERM は、腎不全時の使用は禁忌・使用回避となっていることが多く、中等度の腎機能低下でも薬物代謝への影響を考慮して慎重な投与が必要となります。

我々の病院に大腿骨近位部骨折、脊椎の圧迫骨折で来院される患者の内、85 歳以上の超高齢者で、さらに現在までの既往骨折がある場合には骨折連鎖を防ぐため早期に骨折を防止できるような薬剤の選択が必要ですが、果たして YAM が 60%を切っているような方にこれから治療を行ってもその後の骨折の防止が可能かどうか疑問に思います。やはり、骨粗鬆症の治療は女性の場合閉経後早期からの治療が必要ではないかと痛切に感じております。

忘れてはいけない結核

—特に高齢者の結核について

呼吸器科部長 太田 千晴



我が国における 2014 年の年間新登録結核患者数は 19,615 人と初めて 2 万人を下回り、人口 10 万人対罹患率も 15.4 で減少傾向が続いています。しかし、日本の結核罹患率は欧米諸国と比較し依然として高い状況です。（米国 (2.8) の 5.5 倍、ドイツ (5.1) の 3.0 倍）

結核の高齢化はますます進行し、2014 年の新登録結核患者のうち、60 歳以上が占める割合は 71.5%に達しており、特に 80 歳以上の結核患者は 3 人に 1 人以上の 37.7%です。80 歳以上は罹患率も高くなり、76.7 となっています。

高齢者では多くが結核既感染者であり高齢のために容易に内因性再燃をきたしやすいこと、加齢に伴う細胞性免疫低下により外因性の再感染も起こすことから、発病しやすいと考えられています。寝たきり、低栄養、嚥下機能低下などの全身状態の悪化や、脳血管障害、悪性腫瘍、COPD などの慢性呼吸器疾患、上部消化管切除後、糖尿病など免疫力を低下させるような基礎疾患を有するものが多いことも、再燃に追い打ちをかけています。

高齢者の結核では、若年層に比べ、元気が無い、体重減少、食思不振などの全身症状のみを訴える頻度が高く、咳嗽、発熱、盗汗などの頻度は低いことが報告されています。胸部画像上は空洞を形成する率が年齢とともに低くなり、好発部位でない中・下肺野にも病変が見られやすい等、非典型的な画像所見が増加します。特に後期高齢者では頻度的に多い誤嚥性肺炎とまず診断されやすいのが現状です。

治療は標準化学療法（INH+RFP+EB または SM+PZA（80 歳以上では PZA を除く 3 剤））ですが、全身状態や合併症のために標準化学療法ができない場合も多く、治療終了例も他の年齢層に比較して低くなっています。

高齢者の結核は、呼吸器症状に乏しい、典型的な画像所見をとらないことが多いという点から、診断が遅れやすく、重症化してしまう危険性があります。元気が無いなど全身症状のみを訴えた場合でも、胸部画像検査を施行し、異常陰影がある場合は結核も疑いながら検査を進め、早期診断・早期治療開始に努めることが重要と考えます。

新任医師紹介



外科医師
いそべ ひでお
磯部 英男

初めまして。10月より医局人事にて旭労災病院に赴任になりました磯部英男と申します。

岐阜大学を平成22年度に卒業致しまして、名古屋掖済会病院で初期研修、また一般外科医として後期研修を行って参りました。旭労災病院においては、今まで触れる事の無かった甲状腺、呼吸器、血管領域と幅広い分野で先生方が御活躍されており、勉強になると共に非常に刺激を感じております。微力では御座いますが、この地域で貢献出来る様に精進して参ります。御迷惑をお掛けする事が多々あると思いますが、よろしくお願い申し上げます。

退任した医師

皆様には大変お世話になりました。

外科医師 藤田 健

平成27年9月30日付

